令和５年度（２０２３年度）第２回東海市都市計画審議会　議事録

<table>
<tr><td>日　　時</td><td colspan="4">令和５年（２０２３年）７月１２日（水）
午前１０時から午前１１時２９分まで</td></tr>
<tr><td>場　　所</td><td colspan="4">東海市役所３０２会議室（３階）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">委　　員
（敬称略）
□出席
■欠席</td><td>□下村　一夫</td><td>■森本　收</td><td>□谷口　庄一</td><td>□随念　学</td></tr>
<tr><td>■早川　元博</td><td>□今瀬　和弘</td><td>□冨田　博巳</td><td>□井上　正人</td></tr>
<tr><td>□工藤　政明</td><td>□加藤　典子</td><td>□佐々木　雅敏</td><td>□松木　志保</td></tr>
<tr><td>事務局
出席者</td><td colspan="4">・副市長　稲吉　豊治　・都市計画課統括主任　佐藤　友浩
・都市建設部長　大西　彰　・都市計画課主任　富田　寛志
・都市計画課長　竹内　千明　・都市計画課主任　松澤　佑亮
・都市計画課主幹　齊藤　英樹</td></tr>
<tr><td>次　　第</td><td colspan="4">１　市民憲章唱和
２　副市長あいさつ
３　会長あいさつ
４　議事録署名委員の指名
５　報告事項
　東海市都市計画マスタープランについて
６　その他</td></tr>
<tr><td>公開・非公開</td><td colspan="4">公開</td></tr>
<tr><td>傍聴者数</td><td colspan="4">０名</td></tr>
<tr><td>内　　容</td><td colspan="4">１　開会のことば

２　市民憲章唱和【次第１】

３　資料確認
⑴　次第
⑵　東海市都市計画審議会条例
⑶　東海市都市計画審議会運営規程
⑷　資料１　令和５年度（２０２３年度）第２回東海市都市計画審議会報告事項
⑸　資料の訂正について
⑹　配席表
⑺　東海市都市計画審議会委員名簿</td></tr>
</table>

	４　副市長あいさつ【次第２】 　副市長から挨拶があったもの。 ５　会長あいさつ【次第３】 　谷口会長から挨拶があったもの。 ６　議事録署名委員の指名【次第４】 　谷口会長より、佐々木委員を議事録署名委員に指名し、佐々木委員より了承を得たもの。 ７　報告事項【次第５】 　事務局から「東海市都市計画マスタープランについて」の説明を行い、下記の質疑応答があったもの。なお、説明に先立ち、事務局から資料の訂正を行ったもの。 【質疑応答】 （加藤委員） 　資料１の全体構想（概要）３ページの市民アンケート調査について、「公共交通（電車やバス）が便利で使いやすい」、「商業施設が身近にあり日常生活で買い物がしやすい」等の項目は、住民にとって大切なことであり、今後のまちづくりに期待したい。特に公共交通では、来年度にらんらんバスのルート変更があるので大変期待をしている。 　また、大田町から南側の高横須賀町、養父町、中ノ池及び加木屋町は降下ばいじんの影響があるが、そのような東海市ならではのことも考えた計画であってほしいと思う。説明の中で緩衝緑地について触れられていたが、策定に当たって、降下ばいじんについて考慮をしていたか。 （都市計画課長） 　市民アンケート調査について、鉄道駅から離れた地域の市民からは公共交通が不便であるとの回答や、名和町の市民からは商業系の店舗が無く不便である等の回答があった。今回の報告資料において、生活圏を決めて、鉄道駅をらんらんバスや知多バス等で補完して利便性良く公共交通をできるように位置付けており、今後、関係部署等と連携を取りながら進めていきたいと考えている。 　降下ばいじんについて、緩衝緑地の整備や、企業の市内への進出の際に緑地を多く整備してもらう等の必要性は強く感じているところである。緑

	地を保全するだけでなく、増やしていくことは今後の課題であり、しっかりと考えていきたい。 （加藤委員） 　降下ばいじんについて、横須賀インターチェンジの近くにスラグヤードがあり、西風が吹くと自動車が真っ白になると高横須賀町の方が言っている。企業には対策努力をお願いしたいし、市には企業に対策をお願いしてほしい。聞いた話だが、東海町から高横須賀町に引っ越した方が、高横須賀町ではとても窓が開けられないとのことであった。対策について、どのようにまちづくりに生かすかは私にも分からないが、何か工夫をしてもらいたい。 （工藤委員） 　資料１の全体構想（概要）１０ページの将来土地利用フレームについて、住居系と産業系でそれぞれ市街地の拡大が必要な面積が算出されているが、どのように拡大していくと考えているのか。 　また、同１８ページの⑵の①のアで「グリーンスローモビリティ」とあるが、どのようなものを想定しているか。 （都市計画課長） 　将来土地利用フレームの住居系市街地の拡大については、目標年次令和２５年での拡大が必要な面積約７４ｈａは、土地区画整理事業や１４ページの将来都市構造図の新市街地候補ゾーン等を考慮すると計画上約５９．１ｈａを見込んでいるが、残りの面積分は保留フレームとして駅周辺や市街化区域に隣接する区域等で市街化を検討するものである。なお、目標年次令和１５年での拡大が必要な面積約４ｈａは、これらの区域の中で１箇所は市街化すると見込んだものである。 　産業系市街地の拡大については、目標年次令和２５年での拡大が必要な面積約１５０ｈａは、現在の新市街地候補ゾーンで約１４１ｈａを見込んでおり、残りの約９ｈａは保留フレームとして、インターチェンジ周辺やまとまった土地の利活用ができる区域等を見込んでいるものである。 　グリーンスローモビリティについては、時速２０ｋｍ以下の低速で公道を走行できるような電動車を活用した小さな移動サービスとしており、自動運転等の新技術とも合わせた検討の１つとして記載したものである。 （井上委員） 資料１の全体構想（概要）４ページの企業アンケート調査について、Ａ地

	区を魅力的に感じている企業が多いようだが、この地区の現況はどのようであるか。 （都市計画課長） 　Ａ地区は清掃センターの前からインターチェンジに向かう道路で、市街化調整区域であるが、現状は多くの企業が立地している。理由として、市街化調整区域でも、物流系企業等はインターチェンジから１ｋｍ以内だと開発可能なためである。しかし、そのような開発では、余った農地が部分的に残ってしまう等の問題があるため、地権者や農政部局の意見も聞きながら、まとまった工業系の団地が整備されるよう進めていきたいと考えている。 （井上委員） 　考え方としては、現在立地している企業以外にも工業系の土地利用を進めていくものであるか。 （都市計画課長） 　そのように考えている。現状は物流系の土地利用のみが可能であるが、市には様々な産業から問い合わせが寄せられているため、市街化区域編入も考慮しながら必要な土地利用について考えていきたい。 （谷口会長） 　資料１の全体構想（概要）１４ページの将来都市構造図について、太田川駅周辺の拠点の円が大きいことや、新駅周辺の拠点の円が楕円になっていることについて確認したところ、必要な区域を円の中に入れるため大きくしているとのことであった。しかし、この図は構造図であるから、全部を正円にして、この区域に力を入れていくとした方が、今後、東海市をどうしていくかということが分かりやすいのではと事務局に伝えているところである。 　臨海部の工業地帯は、おそらく６０年から７０年前頃に構想がなされて進められてきたことと思うが、そのくらい産業施策は長期に渡るものであることを考えていかなければならない。なお、現在の東海市の財政を思えば、構想当時の産業施策は間違ったものではないと考えられる。プラスの面をしっかりと評価しつつ、降下ばいじん等のマイナスの面は最小限にしていく必要がある。マイナスの面を諦めるのではなく、必要な対策を考えていくことが大切である。 　ヨーロッパやアメリカの古い都市の政策として、ハザードマップ等で地

	区の特性を示した上で、住民に住むかどうかを問うような方法も見られる。また、小学生を養育する家庭は遠くから通学させるのではなく、小学校付近で生活する、高齢者や単身世帯は鉄道駅周辺で生活する等のライフステージに合った場所に居住することがトレンドである。日本では土地に拘りを持つ人も多いため難しいとは思うが、そのような都市計画が東海市に合っているようにも感じるところもある。ハザートマップ等により、その地区の特性を分かった上で、住んでもらうということが東海市に向いているのではないか。富山市では、郊外に住んでいる高齢者を市や県が安価な賃貸住宅を供給して誘導し、郊外には自家用車で移動することが容易な若い世代に住んでもらうような施策をしている。同７ページには、都市づくりの理念と目標が記載されているが、東海市らしさが無く、他市町のものと違いが分かる人も少ないのではないか。東海市の都市構造を見てみると、非常に希望のある市だと思うので、本来の都市計画を理解した方にリーダーシップを取って進めてもらえれば、もっと素晴らしい市になると思う。降下ばいじん対策に関しては、明日明後日に解決できるものでなく、将来的にどうしていくかを考えて対策していくべきではないか。 （加藤委員） 　先程、資料１の全体構想（概要）４ページの企業アンケート調査の質疑応答の際に、Ａ地区でまとまった工業系団地の整備を進める考えの回答があったが、農業を支える意味でもそのような整備を進める考えであるということか。 （都市計画課長） 　面的な整備の必要性を感じており、農業を継続したい方には別の農業エリアに移っていただく等の対策を検討し、都市計画として農業用途と工業用途の土地利用の住み分けについて、整合を図っていきたいと考えている。 （加藤委員） 　農業従事者が減っており、農業委員の人数も減らしている中で、企業の進出等により農地も減ってきている。そういったことへの対策も計画として必要であると考える。 （谷口会長） 　今の時代の農業は市町単位での議論が難しく、エリアで考えていかなければならない。市町がお金を投資して農業従事者を呼び込むのではなく、広域でどうしていくかを考えていかないと難しいと思われる。どんどんと

	農地を転用して宅地化していくと、農業だけでなく、不動産相場も崩れる等の問題も出てくるので、都市計画としては、農地を守るというよりも、宅地化を抑制することを重視しているのが現状であり、もっと総合政策的に検討していかなければならない。 （随念委員） 　今回の都市計画マスタープランは、ＳＤＧｓの視点で１７の目標に基づいたプロセスが考えられているが、インバウンド需要による観光者、大学生、ハンディキャップを持った方等の市外から来る方を意識した施策を計画に盛り込んでいるか。 （都市計画課長） 　観光においては盛り込めていないが、市外の方に本市に住んでいただきたいという点でも、住みよいまちづくりを進めていかなければならないという認識がある。特に若い世代に住んでいただけるような施策は多からず盛り込んでいるところである。住宅供給の促進施策や公共交通、商業用地があり、市内で生活が完結できるような住みやすい環境を意識して、人口増に繋げていきたいと考えている。 （随念委員） 　主に市民等を対象とした計画で、観光客を増やす施策を盛り込むものではないということか。 （都市計画課長） 　土地利用方針で広域交流拠点を位置付け、太田川駅周辺で人を集めて、昼間人口を増やしていく等の考えはあるが、観光について詳しく記載はしていない。ただ、観光を意識して施策を考えていかなければならないと認識しているところである。なお、資料１の全体構想（概要）１５ページの３項目に、広域交流拠点である太田川駅西地区での土地利用方針を記載しているところである。 （谷口会長） 　都市計画マスタープランは都市計画の基本的な方針であるため、これを基に次に実行計画や戦略プラン等が策定され、その時にどういった場所、どういった層をターゲットにしてどういうことをしていくかといったことが検討されるのが一般的である。 （稲吉副市長） 　今後も東海市総合計画や愛知県策定の知多都市計画区域マスタープラン

	と整合を図りつつ、無作為の市民アンケートで以前からの住民や新しく転入した住民からも意見を聞き、また、パブリックコメントも実施して、利害関係者の意見を集めて反映させていきたいと考えている。 ８　その他【次第６】 事務局から今後の手続きについて報告したもの

令和　　年（　　年）　　月　　日

（議事録署名者）

会　長　　㊞

委　員　　㊞